

安全報告書

(平成25年度)

平成26年6月

ごあいさつ

弊社は、「安全なくして 事業なし」を経営理念とし、「地域とつながる“安全”という絆」というスローガンを掲げております。「安全・安心の提供」がお客さまへの最大のサービスであることを認識し、社員全員が一丸となり、地域の皆様のさらなるご利用環境づくりに取り組んでおります。

鉄道事業者においては大変厳しい状況が続いておりますが、今後とも、自然災害等のほか事故防止に最大限の努力を図って参ります。

山形鉄道株式会社

代表取締役社長 野村 浩志

1. 安全に対する基本方針

(1) 基本方針

当社の経営理念の第一は「輸送の安全確保」です。「安全の基本方針」に行動規範の「安全綱領」を加えると共に、スローガンを掲げ、社長以下全社員に周知し取り組んでおります。

- (ア) 安全の確保は輸送の生命である。
- (イ) 規程の遵守は安全の基礎である。
- (ウ) 執務の厳正は安全の要件である。
- (エ) 職務の実施に当たり推測に頼らず確認の励行に努め、疑義ある時は最も安全と思われる取扱いをする。
- (オ) 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をする。
- (カ) 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保する。
- (キ) 常に問題意識を持ち、必要な変革に果敢に挑戦する。
- (ク) 安全スローガン「地域とつながる“安全”という絆」の危機感をもって掲げ1年間実施。

(2) 安全目標

鉄道輸送安全目標（平成26年度～平成28年度）は、次のとおりです。

区分	項目	内容
目標	列車事故	乗客の死亡を伴う事故を3年間、発生させない。
	人身障害事故	3年間の発生件数ゼロとする。
	踏切障害事故	3年間の発生件数を1件以下とする。

2. 事故等の発生状況

- (1) 【列車・人身事故】発生は、ありませんでした。

(2) 【踏切障害事故】 今年1月末日 1件発生しました。

なお、過去5年間の踏切事故の発生件数と死傷者数の推移は、次のとおりです。

年 度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
事故件数	1	2	2	0	1
死 傷 者	0	0	0	0	0
うち死亡者	0	0	0	0	0

(3) 輸送障害の発生状況

(ア) 自然災害（地震や暴風雨、豪雪など）による運休又は、30分以上の遅れが発生した件数及び本数は、以下のとおりです。

災害種別	運休内訳					30分以上の遅延内訳				
	風害	雪害	雨害	震害	雷害	風害	雪害	雨害	震害	雷害
件 数	1	1	2	0	0	1	0	1	0	0
本 数	5	14	34	0	0	20	2	2	0	0

・30分以上の遅延件数は、運休件数と重複する件数を除きます。

(イ) 車両不具合によるもの 1件発生しております。

・10月13日荒砥発上り赤湯行きが蚕桑駅を定刻に発車、白兔駅到着直前にエンジンが停止、そのまま惰行運転で白兔駅到着、客扱い後、エンジンを再始動するも動かないため、乗客の代行輸送を実施しました。この影響で当該列車と後続の上り列車1本を区間運休並びに、下り列車各1本を区間運休及び全線運休し、当該車両を荒砥駅に収容し16時台から通常運転となりました。お客様には、大変ご迷惑をお掛けしました。

原因は、動力発生装置の噴射ポンプの不具合によるものでした。

(ウ) 踏切支障によるもの

※ 単位；件数

項 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度
遮断桿折損	12	11	18
支障装置いたずら	6	2	2
その他の事象	3	0	0

(4) インシデントに該当する事案は、ありませんでした。

(5) 安全に関する保安監査が去る9月11日から13日まで3日間にわたり実施されました。

本件における勧告事項として以下のご指導を受け計画的に実施しています。

- ① 列車等運転に直接関係する作業係員並びに施設及び車両保守係員に対する教育及び訓練は、年間計画を定め、定例的に実施すること。
- ② 線路緒標の一部劣化により見えにくくなっているものや破損したものが、確認されたことから全線の設置状況を点検し、必要に応じ適切な整備を行うこと。
- ③ 踏切遮断機の遮断桿の塗色が、退色していることが確認されたことから、全線の設置状況を点検し必要に応じ適切な整備を行うこと。

3. 輸送の安全確保のための取組み

(1) 新たな安全スローガンを社内募集し「地域とつながる“安全”という絆」を掲げ意識の高揚を図りました。

(2) 踏切事故ゼロをめざして

(ア) 営業車・工務車両に「踏切事故防止運動中」のプレートを貼付け、広報活動を行なうほか、踏切2箇所で踏切事故防止キャンペーンとして踏切事故防止グッズ、クリアファイル及びポケットティッシュを配布し事故防止の啓蒙を行いました。

(イ) 駅構内にポスターを掲示し意識の高揚を図りました。

(ウ) 民間ラジオ放送の協力で冬季踏切事故防止キャンペーンの広報を行いました。

(3) 教育訓練関係

- ・ 車両保守における技術継承検修会及び鉄道保線技術研修会などの各外部協会主催の研修会に若手社員が参加し鉄道技術の習得向上に努めた。
- ・ 冬季シーズン前に乗務員に対する電気転てつ機取扱い訓練を実施し、取扱い確認の徹底を図った。

(4) 安全のための支出

平成14年国土交通省安全性緊急評価を受け指導を頂いたものをはじめ、安全対策、軌道整備並びに車両の定期点検（重要部検査）2両の点検整備のほか、平成24年度末公共施設緊急老朽化対策として、国の補助事業を追加実施し一層の安全性の向上に努めました。各事業費は、以下のとおりです。

(ア)

緊急保全整備事業	総額
蚕桑構内道床交換工事	451万円

(イ)

地域公共交通確保維持改善事業	総額
軌道整備費（PCマクラギ化）	640万円
軌道整備費（橋マクラギ更新）	772万円
踏切遮断機更新	791万円
通信ケーブル更新	1,092万円
車両定期点検整備費（重要部検査2両）	2,891万円

(ウ)

緊急老朽化対策事業	総額
踏切保安設備更新 2箇所	1,474万円

1. 緊急保全整備事業

(ア) 蚕桑構内道床交換工事 完成写真



(イ) 地域公共交通確保維持改善事業

軌道整備費 (PC マクラギ化)



踏切遮断機 更新



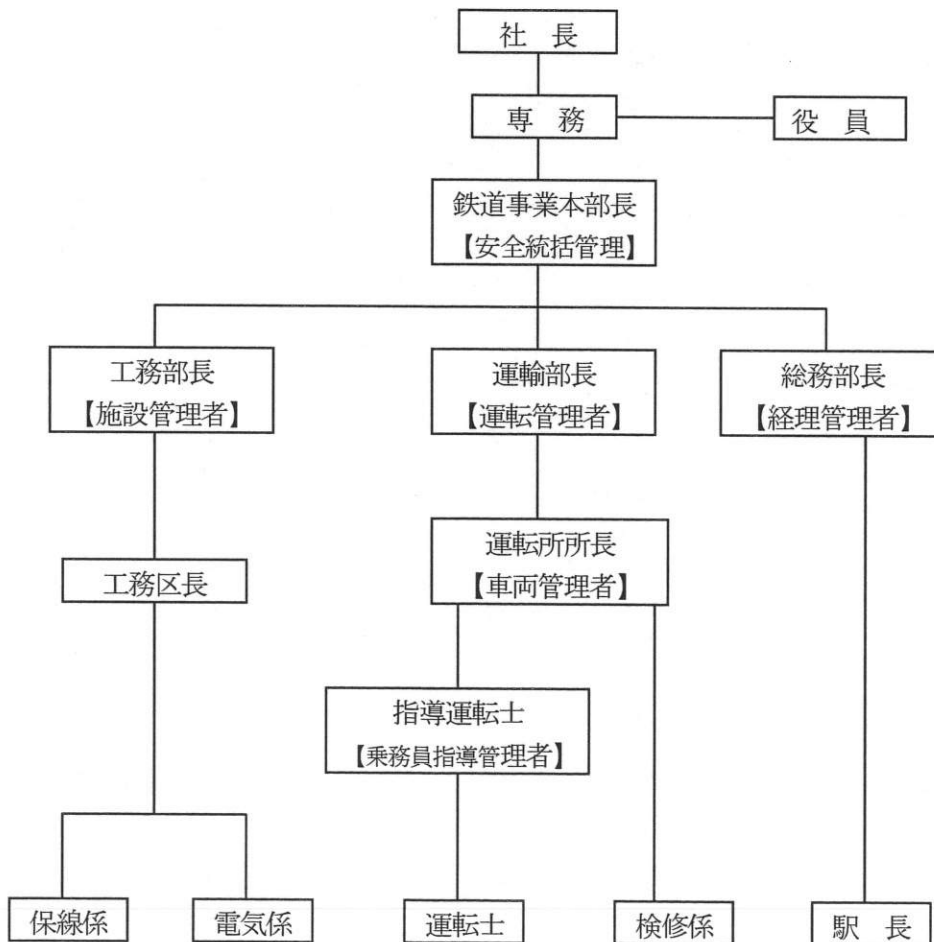
(ウ) 緊急老朽化対策事業
踏切保安設備 更新



4. 安全管理体制

(1) 安全管理組織

弊社では、社長をトップとする安全管理組織を構築・運用しています。この組織の中で安全統括管理者、運輸管理者、施設管理者、乗務員指導管理者等がそれぞれの責任を明確にした上で、安全確保のための役割を担っています。



役 職	役 割
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
鉄道事業本部長 【安全統括管理者】	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運 輸 部 長 【運転管理者】	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
運 転 所 所 長 【車両管理者】	運転管理者の指揮の下、車両に関する事項を統括する。 運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。
工 務 部 長 【施設管理者】	安全統括管理者の指揮の下、施設に関する事項を統括する。
総 務 部 長 【経理管理者】	安全統括管理者の指揮の下、運輸の安全の確保に必要な設備投資・人事・財務に関する事項を統括する。

5. 利用者・住民の皆様との連携のお願い

長井駅及び宮内駅の旅客通路は歩行者専用です。自転車で通行することはできません。ご理解とご協力をお願いします。

6. 安全報告書へのご意見に対する連絡先

安全報告書へのご感想、当社への安全への取組みに対するご意見をお寄せください。

【お客様ご案内窓口】

山形鉄道株式会社

Tel;0238-88-2002

FAX ; 0238-88-5187

E-mail ; yr-inf@flower-liner.jp